

議会報告会実施報告書

開催日時	平成28年11月30日（水） 18時00分～19時00分		
開催場所	西当別コミュニティーセンター	出席者	2名
出席議員	島田副議長・高谷議員・渋谷議員		
<p>◎島田副議長開会</p> <p>◎島田副議長挨拶</p> <p>○（島田副議長） 本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。議会報告会を開催させていただきます。1時間程度、懇談させていただきたいと思えます。司会をさせていただきます副議長の島田です。こちらは、高谷議員で議会選出の監査委員もやっております、前議長です。そして、こちらは、渋谷議員で、総務文教常任委員会の副委員長をやっております。今日は、3人で対応させていただきますので、よろしく願いいたします。議会報告会は、平成25年から、今まで7回実施し、町内会の会長などを対象に、3会場で年2回開催しておりました。議会で決まったことや審議されたことなどの話をしてきました。今回から、ターゲットを絞り、サークルや町内の各団体から、直接、意見や要望などを聞いてはどうかということもあり、議員15人が、4グループに別れ、各小中学校や幼稚園、保育所の父母の役員とお話しさせていただくことにしました。今日は、子育てをされている方から、直接、意見や要望をお聞きしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>◎議会報告会、各定例会・臨時議会、議会改革の取組み、町の子育て施策の取組み（平成28年度予算）について報告 島田副議長、高谷議員</p> <p>◎懇談</p> <p>◎子どもが集える場について</p> <p>○（町民） 真ん中の子は小学生で、スクールバスで通っている。スクールバスで通う子は、街の子と遊ぶ時間がすごく短い。プレイハウスに通う子ではなくても自由に行き来できる札幌の児童会館のような場所があるといい。図書館ができるとしたら、子どもが集まれる場所を設けてほしい。もし、いつできるかわからないのであれば、プレイハウスの先生たちの負担になるかもしれないが、スクールバスの子どもたちが、交流ができるようにしてもらえたらと思う。例えば、早帰りのときは、「次のスクールバスで帰ってもいいよ。」などなればいいと思う。特に家が遠いので、お友だちの家に自転車で行くにしても6キロから7キロあり、女の子一人で、行っておいでとは言えない。春から小学校へ通う子もいるので、そういう場所があったらいいと思う。</p> <p>○（議会） 部活をしている子のスクールバスは、ないのか。</p> <p>○（町民） 中小屋だけある。自分が中学生の頃、スクールバスがあったのは、川下と蕨岱だけであった。その頃は、部活に対応した5時半便があった。川下だけ、蕨岱だけ、東</p>			

裏だけということではなく、1便でもいいから、部活に対応した便があればと思う。予算の都合で難しいとは思いますが、すごく助かる親もいると思う。

- （議会） 統合前後は、便数を増やすなどするが、時間が経つとそうになってしまう。
- （町民） つなぎの場所があるとへき地に住む人たちも「あの場所にいるから安心だ。」と思える。1ヶ所でもあるといい。プレイハウスでもいいし、図書館でもいい。
- （議会） そのような子どもたち同士が遊ぶところがない。
- （議会） 今、スクールバスは1便か。
- （町民） 授業によって違う。小学校1年生は、4月は早く帰る。10時半くらいに1便出したりしていると思う。学年によって出す便が違うと思う。
- （議会） 部活便は、ないのか。
- （議会） それは全部親のお迎えである。
- （町民） 当中は、5時半になると親の車が10台以上並んでいる。今は色々な事件があるので、街に住んでいる、特に女の子のお母さんは、心配で迎えに行く親が多いと思う。
- （議会） 研修で、新しく建てた図書館を見ると、確かに集える場所がある。
- （町民） 誰か一人でも大人の目があれば、安心である。
- （議会） 図書館はないが、図書室は、この西コミセンにある。
- （町民） 当別は、商工会の近くにあるが、時間は5時まで。せめて5時半にしてもらおうとか、どんな形でもいいが、どこか1ヶ所でもあれば、避難所みたいなのところがあったらいいと思う。

◎子ども子育て支援新制度について

- （議会） 議会報告会が全部終わり、各会場の意見や要望をまとめ、行政に伝えることは伝え、回答を貰う。議会への要望や意見があれば、それも答える。今日言われたことも十分検討されることになる。今回、保育所の役員ということであるが、今言われた小中学校のことも関連があるので、言っていただいても全然構わない。
- （議会） 園を代表し、役場などに、陳情や要望を伝えてははいないのか。
- （町民） 先日あった。役員が集まり取りまとめているわけではない。子どもはいるが、切実に困っているとかはない。女性に比べ、疎いのかかもしれない。
- （町民） 今回の「産休・育休中のお母さんでも、お子さんを保育園に預けていいですよ。」というのはすごく良い。1子目は、自分と赤ちゃん1人だから、自分が元気であればどうにでもなる。しかし、2・3歳の動きまわる子がいるし、赤ちゃんもいるとなると、どうしたらいいのかと悩んでいるお母さんがいることは、確かである。
- （議会） 伝えておく。励みになると思う。

◎子育て支援センターについて

- （町民） 子育て支援センターに2・3年行き、思ったのは、最初、当別の子育て広場に行き、そのとき「何でこんなガラクタで遊ばなくてはならないのだろう。」と思った。今は違うと思うが、遊具を増やしたり買い換えたりしてほしいと思った。それと、壊れている物は捨ててほしいと思った。太美にも行ったが、お昼から先生に相談したいお母さんがいた場合、お昼寝があるので、ピンポンを押してまでわざわざ行

かないであろうなと思った。困っているお母さんが行きづらいと思う。できれば、場所を変え、気兼ねなく玄関に入れる場所であれば、子どもと一緒に入りやすい。一工夫してほしいなと思った。

◎保育所のオムツについて

○（議会） この前、読んだ本で、外国から東京へ来て子どもを預けたら、子どもの持ち物がいっぱいあり驚いたという話載っていた。外国では、ほとんど持ち物がないようである。保育園へは、オムツ一つ一つに名前を書き持って行くのか。また、使い終わったオムツを家に持って帰るのか。今日来たら聞いてみようと思っていた。

○（町民） 名前を書いた紙オムツを持って行くし、使ったオムツは持って帰る。

○（議会） 外国ではそのようなことはなく、日本だけのようである。

○（町民） 施設だったら、ゴミの費用がかかるだろうし、あとは、子どもの健康のバロメーターというのもあるようだ。

○（議会） 本にもそのように書いてあった。

○（町民） あいの里の保育園に勤めていたが、貸しオムツであった。使用する人数で割っていた。民間は貸しオムツが多いが、公立は、ほとんど紙オムツで、持ち帰る。

○（議会） ふとみ保育所は、今は公設民営というか委託であるから、ある程度自由にできるのではないかと思う。どちらがいいのかは分からないが。

○（町民） 貸しオムツにしても、月に何千円にもならなかったと思う。

○（議会） 紙オムツを持ち帰らせる理由は、なんだろうと思って調べると、今、言ったように「子どもの体調のことを知らせる。」ということであった。

○（町民） おたよりで十分。

○（議会） おたよりを書いて出すというのも日本だけのようである。親が、何で毎日送迎しているのかというと、会って話しをするためである。要するに、お世話している人にとっては、非常に負担の大きい制度になっている。使ったオムツの仕分など余計な仕事がお世話する人にかかっているのが、日本の制度のようである。

○（町民） 親としては、捨ててくれれば一番ありがたい。

○（議会） 捨てられない理由は何か。それだけでも相当な負担である。

○（町民） アンケートをとって捨てるかどうか聞いたら、お金を払ってでも捨てると思う。小さい子がいるおうちに、ゴミ袋が配られているからか。もし、お金を払いたくなければ、そのゴミ袋を持ってきてと言えばいいのではないか。

○（議会） 公共施設で出るゴミは、町がお金を払っているのか。

○（事務局） そうである。

○（議会） そのような形で、処分できることは処分できる。

○（事務局） 処分できるが、事業系のゴミは高い。

○（議会） 皆のためにやるというのであれば、議員みんな頑張る。

◎ふとみ保育所について

○（事務局） ふとみ保育所は、保育所に要望や意見を言いやすい環境であるのか。

また、子どもを送迎する時など、先生は、お子さんの様子を伝えてくれるのか。

○（町民） 基本的には、そうであると思う。ただ、園のスタンスもあるし、保護者の気持ちもある。私は男なので、子どもを迎えに行き先生が様子を話してくれても、そうなんだと聞くぐらいで、「ここはどうですか。」までは聞かない。もちろん、保護者から「今日どうでしたか。」と聞くと、返答は来ると思う。積極的に言ってくれる方もいるし、こちらが「帰るぞ。」というスタイルであると「バイバイ。」と言う先生もいるだろうし、お互いの接し方でもかなり違うのかなと思う。聞きたければ、こっちが積極的にならないといけないときもあると思う。

○（議会） 向こうも言いたければ、必ず言うと思う。

○（町民） 忙しいときに話しかけられると「あー。」と思うこともある。それは、そのときそのときのタイミングである。おそらく「先生は何も言ってくれない。」と言うお母さんは、不安なお母さんであると思う。先生は、不安なお母さんをしっかり把握し、そのようなお母さんには、話しをしてくれていると思う。

○（町民） ただ、雰囲気という意味では、そう感じられる方も、いるかもしれない。話しにくいとか、とっつきにくいとか、お互いに色々な人がいる。

○（町民） それは、相性の問題もあると思う。

○（町民） 話しづらいという感じは、今のところ受けていない。

○（町民） 一生懸命な先生が多い。

○（町民） 本当に、一生懸命やっていると思う。

○（議会） 近隣の市町村に比べ、当別町の保育所のいいところや悪いところとか、気付いた点や他のお母さんから聞いた話などはないか。

○（町民） 私は、ふとみ保育所が初めて子どもを預けたところなので、特に不足もなく、こんなものかなと思っているが、昔の町の直営であった保育所から子どもを預けている親御さんからすると、「昔はもっとこうだった。」と言われる方がいるのは事実であると思う。それでは、今はどうなのかというと、共働きの方が昔よりずっと増えているのが現実で、先生たちもまさに言われるとおり、やることが増えていると思うので、まるっきり味方するわけではないが、全てを求めることがどうなのかと思うところもある。言われる方は、ちょっと不満なところもあるのかもしれない。

◎保育料について

○（議会） 当別町は医療費の助成制度を拡大している。これは、近隣の市町村やこの市町村も力を入れている。高校生までの入院は、医療費を助成するというをやっている。今、力を入れている。札幌市もそれをやろうとしている。

○（議会） 秋元市長の公約であるから、やると思う。うちはそれに先行した。

○（議会） 保育料の関係で、第3子から無料にするというのを他の市町村はやり始めている。そういう要望や保育料をもう少し安くしてなどの要望はないか。

○（町民） 正直な話、保育料は、安ければ安いほうが良い。私は、いい歳になるので、もう1人とは思わないが、少子化のご時勢なので、第3子というよりは、思いきって第2子から無料とは言わないが、ぐっと保育料を下げるとかしたほうが良いと思う。職場の共働きの若い人で、2人目をほしいが現実的には難しいという話も聞く。

- （議会） 当別町は、2人目は半額である。
- （議会） 3人目を無料にするのは、あまりお金はかからないと思う。3人子どもがいる家は、そんなにない。
- （町民） 思いきって、当別が第2子から無料にするとすごく話題になると思う。
- （議会） 不思議なもので「自分たちの頃はそんな制度はなかったのに、早くやってくれよ。」と不満が出たりする。
- （町民） それは、しかたない。それを言い出すと何も進まなくなる。特に、札幌に近いので、思いきったことをやると住んでみようという気になるかもしれない。
- （議会） 選ばれる町になるために、教育や子育ての環境を整えるのが手っ取り早いのか、例えば、働く場所を作る方がいいのか。全部できれば一番いいが、大変難しい。去年よりは、少し子どもが生まれる人数が増える予定である。60人台にはなりそうだが、少ない。どこに行っても、子どもたちが少ない。

◎産後のサポート体制について

- （町民） 出産直後のお母さんへのケアがすごく手薄であると感じる。産後1ヶ月、お母さんは、ほとんど動けない。近くにお世話をしてくれる人がいたら良いが、誰も頼める人がいなく、困っている人は結構いる。東京や北海道や当別など、どこにでもいる。産後1ヶ月の間、お手伝いをしてくれる人がいると非常に助かる。岩見沢では、社会福祉協議会で派遣し、8回まで使える産直ヘルパーというシステムがある。札幌市でも、社会福祉協議会であったと思うが、生後8週まで産直ヘルパーを使える。生んだ直後に助けてほしいお母さんはたくさんいる。いきなり生んだ直後にいいお母さんになれるわけではない。すぐに立派なお母さんになるわけではない。先導してくれるベテランの方が、ちょっとお世話をしてくれるシステムがあると良いと思う。
- （議会） フランスなんかはあるし、お父さんを必ず休ませる。
- （町民） フィンランドかどこかで、ネオボラだかっていうのがあり、そこまでとは言わないが、お母さんのためのヘルパーが、家事もしてくれ、赤ちゃんの面倒もみてくれる。サポートセンターは、赤ちゃんの面倒をみるだけで、家事はしない。実際にあるみたいだが「台所がちらかっているけど、私、家事をしたらダメなの。ごめんね。」と聞いたことがある。両方できる人材が、1人でも2人でもいたら違うかなと思う。産後1ヶ月の間、週に1回でも、そういう人がいるとお母さんはすごく心強いと思うし、これであれば、もう一人生もうかなと思う方もいると思う。
- （議会） 母親アシスタントという制度がフランスにはある。家事もしてもらえが、お金がかかる。例えば、個人の家に残れることも、家に来てもらうこともできる。フランスは、契約社会で、その人と契約をもらい、その一部を国が払ってくれる。そのような制度が当別にあれば、相当、他のところと差別化にはなる。
- （議会） 似たような制度は、今、当別町にはないのか。
- （議会） 母親に対するヘルパーはない。
- （町民） ファミサポがあるが、子どもを預かったりするだけだし、小さい赤ちゃんは預かれないはずである。半年ぐらいからかな。
- （議会） そこらへんは、当別は充実しているのかなと思っていた。

○（町民） 私も産後ケアの仕事を何回かした。ある方が、ファミサポと産後のヘルパーを両方使っていて、ファミサポは、時給がすごく安い。そしたら「あそこのうち、1回行って大変だったから、もう行きたくない。」とすぐ辞める方も多く、それも現実である。責任持ってやってくれる方もいるが、勉強して資格をとっても、だんだんやる人が減ってくる。お母さんを「あんたそれではだめなんだよ。」とジャッジする人ではなく、「頑張ってるから、今日は休もう。」と言ってくれる人がいたらいい。

○（議会） 色々な資格を認めている国もある。例えば、子どもたちをお世話する保育看護師。子どもを預かり、医者ではないが、薬を子どもに提供できる資格。当別町だけでそのような資格を作るわけにもいかない。実際に、日本が遅れていることは間違いない。出生率が低い理由はそこにもあると思う。非常に大きな問題である。

○（議会） ゆうゆうはそのようなことはやっていないのか。

○（事務局） 子どもというよりかは、障がい者の方である。

○（町民） 岩見沢でも札幌でもやっていることであるから…。

○（事務局） 今年、役場とゆとりにいた保健師を一つにし、少し組織的に動けるようになってきていると思う。これは、福祉部に投げかけてみたいと思う。福祉部が無理なのであれば、社会福祉協議会で取り組めるかどうかも含め、投げかけてみる。

○（議会） 確か、産後ケアの請願とか陳情を国にしようと議会に出てきていた。だから、今後そのような方向に向かおうとしているのかもしれない。

○（町民） 予算が、今年の春くらいから付き、札幌は団体が立ち上がってきている。

◎島田副議長挨拶

○ 1時間、あっという間の時間で、本当はもっとお聞きたいのですが、ご予約もあると思いますので、この辺で報告会を閉じたいと思います。議会は本当に身近な存在だということを知っていただければ、今日やった意義はあるのかなと思います。今日出された意見や感想は、全議員のまとめの中で今後有効になるように議会としても取り組んでいきたいと思っています。今日は、少ない人数で、かえって色々な意見を聞かせていただけたのかなと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。今日は、本当にありがとうございました。